

～ 着物で歩く雁木通りにぎわい創出事業 ～

雁木(がんぎ)が連なる雪国の宿場町の街並みを再現した牧之(ぼくし)通り。文化遺産の「越後上布」と「北越雪譜」。これらの地域資源を活用し、観光客の取り込みと商店街の認知度向上を目的に「着物で街歩き」等のイベントを実施。店舗での会話が弾み、牧之通りのリピーターとなってもらえるきっかけができた。

所在地：新潟県南魚沼市塩沢1112-32
 TEL：025-782-1206 FAX：025-782-4044
 URL：—
 組合員数：45名
 商店街の類型：地域型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景



J R 上越線の塩沢駅から徒歩5分の商店街。周辺には公共施設や金融機関、学校、医療機関、スーパーもあるが、買い物は郊外の大型店を利用する住民が多い。現在の牧之通りは、往時の宿場町、雪国特有の建物から道路に伸びた庇(ひさし)が連なる雁木の街並みが再現され、市外からの来街者が徐々に増えつつある。商店街では、特産品の「越後上布(重要無形文化財)・塩沢縮(伝統工芸品)」、通りの名になった鈴木牧之の「北越雪譜(雪国越後の風物、風俗を活写した江戸期の著作)」をPRし、この傾向に拍車をかけたいと考えている。

実施した事業の概要

①塩沢きもの街歩き 平成26年10月1日～平成27年3月29日

「塩沢つむぎ語り」と題したこれまでのイベントは、越後上布や塩沢織の展示だけで、観光客の思い出作りやPR効果が弱かった。そこで今回は着物での街歩き体験のほか、プロによる写真撮影も行った。伝統ある街並みに着物姿がよく似合い、昔の時代に戻ったようで、「いい体験が出来た」と参加者に大好評だった。事前予約制としたため、期間中の参加者は62名だったが、来街者を含め伝統文化の啓蒙や会員店舗での話題作りに役立った。

②越後上布「居坐機(いざりばた)」実演

越後上布は、平織の麻織物で、縮織のものは小千谷縮・越後縮と言われる。平成21年にユネスコ無形文化遺産に登録されたことから、観光客の関心が高まり、「織っている様子を見たい」という要望が寄せられていた。このため今回は、居坐機(足を前に出し床に座って織る機械)を会場に設置し、平成27年1月10日～3月29日までの土日・祝日に実演を公開したところ、入場が難しいくらい混雑する時間帯もあって、延べ2,080名が見学した。



③北越雪譜かるた大会 平成27年3月21日

「牧之通り」の由来となった鈴木牧之の著「北越雪譜」を知っている子供は少ないため、これを題材にしたかるたを作り、地域の小学生を集めてお披露目を兼ねた「かるた大会」を実施。見学者を含め85名が楽しんだ。かるたは「低学年」と「高学年」に分け、時折、絵札や読み札の内容を説明しながら進め、遊び感覚で郷土の昔を知り、愛着を持ってもらえた。

成果と成功の要因



「塩沢きもの街歩き」では、「越後上布は初めて触ったが、とても素晴らしい着物でした」などの感想を参加者からもらった。着物は期間内に常時展示して来街者に公開。説明もしたことで、伝統文化を知ってもらえ、店舗での話題づくりにもつながった。「居坐機」実演の見学者からは、一日で織れる量の少なさや、湿度管理などについて驚きの声が上がっていた。牧之通りと越後上布・塩沢織の関係なども知ってもらえる良い機会になった。「北越雪譜かるた大会」には、多くの保護者も見学に訪れたことで、店主との交流の場ともなり、牧之通りのリピーターとなってもらえるきっかけができた。

今後の取り組み

来年度からは塩沢織物工業協同組合との連携を強化し、自己資金で続けられるようにする予定である。レンタルする着物は、今回の結果をもとに必要枚数を精査し、数を減らして塩沢織物工業協同組合へ提供協力をお願いする。実演は、織り子の訓練をした組合員がいるので、安価で担当してもらおう方向でお願いしている。

今後も事業を継続していくために、総会で組合費の増額が承認されており、現在、これを活動資金の一部にするための話し合いを進めている。